

『人間失格』（太宰 治／著）

八戸聖ウルスラ学院高等学校 1年 下川原 百音

「恥の多い生涯を送ってきました。」この作品は主人公の幼少期からのある葛藤と、その苦しみから逃がれようともがき続けていた人生の振り返りが描かれた作品である。私は主人公と同じように相手の表情や行動等から心情をうかがったりしながらコミュニケーションをとることがほとんどで、ある意味”お道化”を演じながら生活をしているのではないかと思う。きっと誰しもそんな経験を一度でもしたことがあるはずだ。この作品では主人公の人生の没落の様子が描かれているが、単に“苦しくなる”だけの作品ではない。主人公の世間との関わり方、世間の主人公への関わり方、一個人としての人生の生き方や人間の在り方について考えさせられる作品である。

『木曜日にはココアを』（青山 美智子／著）

青森県立五所川原高等学校 1年 木村 柑南

「あなたにはほっとできるものがありますか。」この質問に対してあなたは何を思い浮かべたでしょう。場所、趣味、友人、恋人、家族、さまざまなものがあると思います。私のほっとできるものは本です。本というのは作者の思いが物語になり、読者の心に宿り続ける不思議なものです。私は嬉しいときには笑える本、辛いときには思いっきり泣ける本を読みます。自分の感情に従うことでほっと一息できる気がするのです。この本は1杯のココアからつながる物語。温かい感情やもろく壊れてしまいそうな感情を持った人達の日常を描いたもので、それらは全てつながっています。あなたも木曜日にはココアを飲んでほっとしてみませんか。

『よけいなひと言を好かれるセリフに変える言いかえ図鑑』（大野 萌子／著）

青森県立三戸高等学校 2年 岡山 那優多

この本は、日常的な会話や社会的な言動について教えてくれます。私は友達とのちょっとした会話で、傷ついたり、逆に傷つけてしまっているなと感じることがあります。この本を読んで一番感心した言葉は、「なんとかなるよ」ではなく「どうすればいいか考えよう」という言葉です。私はよく「なんとかなるよ」とか「別に良いんじゃない」とか、無責任で根拠のない励ましをしてきました。自分としては軽い励ましの方が良いかなと思っていても、相手からしたら、もっと強く前向きな言葉を受け取った方が単純にうれしいだろうなと考えるきっかけとなりました。上手な人間関係を築きたい人や聞き上手になりたい人へお薦めします。